

## 災害廃棄物（漁網）の 受け入れ処理について（お知らせ）

被災地の復興を支援するため、東日本大震災で発生した岩手県洋野町の災害廃棄物（漁網）の受け入れを検討することを、去る4月8日に発表しましたが、議会や地元自治会などと協議を重ね次のとおり受け入れを行う予定です。

### 【受け入れの理由】

今回受け入れを表明した主な理由は、次の3つです。

- ① 震災から2年が経過したにも拘らず、依然として受け入れ先が決まらず、復興の妨げとなっていること。
- ② 東南海地震、南関東地震、首都圏直下型地震、神奈川県西部地震などの発生切迫性が懸念されており、また富士山噴火の可能性も示唆される中、当町も被災自治体となりうる可能性があること。
- ③ 当町は全国からの観光客によって支えられ発展してきた町であること。

### 【受け入れ期間（予定）】

9月頃から ※ 漁網の搬入自体は年内に完了する予定です。

### 【実施場所】

第2一般廃棄物最終処分場（箱根町畑宿 334-15）

### 【受け入れ予定量】

最大100トン（約250<sup>m</sup>） ※ 町の年間埋め立て量の3ヶ月分相当

### 【受け入れ基準】

受け入れする漁網は次の①から④の基準をすべて満たすものとします。

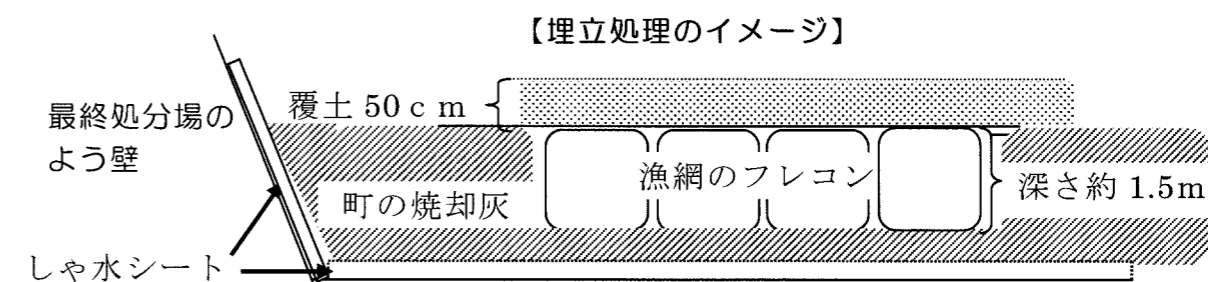
- ① 放射性セシウムの濃度 100 ベクレル/kg 以下  
（食品などの基準と同じレベルです）
- ② 放射線の空間線量率が 0.19 マイクロシーベルト/h 以下であること。  
（年間 1 ミリシーベルト以下）
- ③ 重金属である鉛や異物などを除去し、埋め立て基準を満たすこと。
- ④ 農薬などの有害物質の検査を実施し、安全性が確認されていること。

### 【受け入れ方法】

受け入れ基準をクリアした漁網を大型土のう袋（フレコン）に封入し、1回につき10袋程度の搬入を想定しています。漁網入りのフレコンは最終的に全部で90袋程度（約250<sup>m</sup>）になると見込んでいます。

搬入された漁網入りのフレコンは、放射線の空間線量率を計測したのち、最終処分場（埋立地）に搬入され、約1.5mの深さに掘削された穴に埋め立て処理します。埋め立て後は、50cmの覆土（きれいな土）で覆います

※フレコン：フレキシブルコンテナバッグの略



### 【最終処分場の構造】

最終処分場は、廃棄物の処理および清掃に関する法律で規定されている廃棄物処理施設であり、廃棄物を安全かつ適正に処理できるように厳しい基準に従って建設されています。最終処分場に降った降雨は、すべてしゃ水シートで集められ、水処理施設で薬品などによる処理をした後、水質基準を満たすチェックをクリアした水が付近の河川に放流されます。

万が一、しゃ水シートに破損があれば、直ちに環境センターに通報が入る仕組みになっています。（24時間機械監視）

### 【埋め立て後の管理】

町が責任をもって、他の焼却灰とともに廃棄物の安定化に向けて維持管理を行っていきます。最終処分場内の放射線の空間線量率や放流水の放射性物質の濃度測定を実施します。

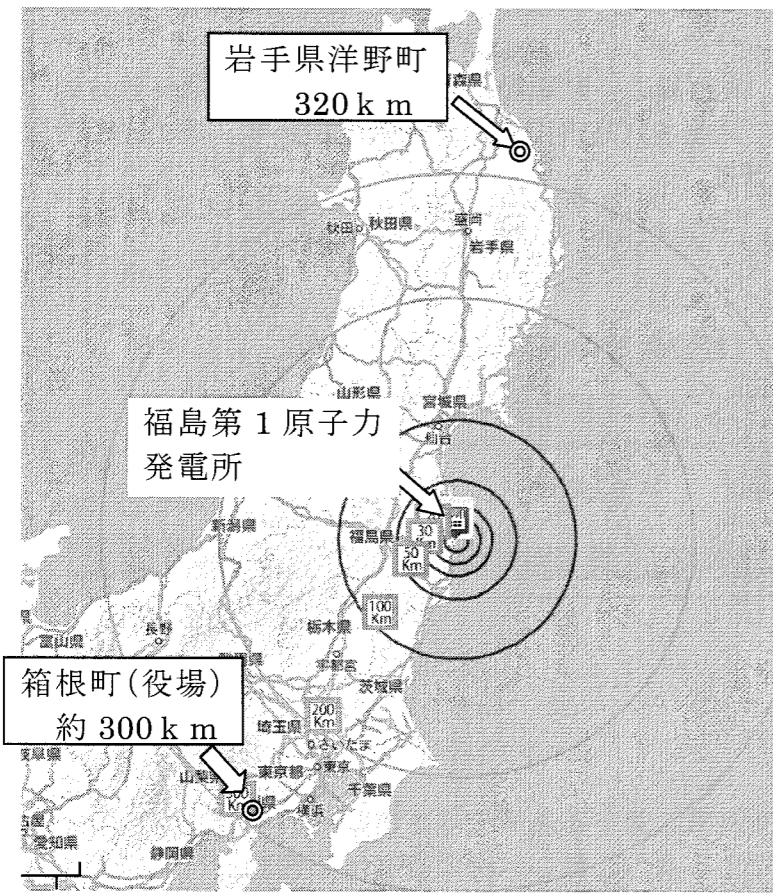
○放射線の空間線量率 漁網の埋め立て開始から1ヵ月は週1回  
その後は、月1回を継続

○放流水の放射線濃度 漁網の埋め立て中は、週1回  
その後は、月1回

（裏面に「漁網受入れに関する安全性などについての主なQ&A」を掲載しています）

～ 漁網受入れに関する安全性などについての主なQ&A ～

問1 福島第1原子力発電所からの距離はどのくらいありますか。



なお、漁網の空間線量率は、1時間あたり0.05マイクロシーベルト程度で、箱根町環境センター敷地での測定値と違いはありません。

(答) 箱根町役場が約300kmに対し、岩手県洋野町は、約320kmです。距離では、箱根町より遠い位置になります。

問2 漁網の放射能に対する安全性の問題はありませんか。

(答) 受け入れる漁網は、放射性物質(セシウム)の濃度が、1キログラムあたり100ベクレル以下です。これは一般食品のセシウムの基準と同じです。

また、神奈川県が洋野町の漁網を12分割し、それぞれ1検体(全12検体)の放射性物質濃度を測定したところ、下表のとおり、12検体すべてについて検出下限値の20ベクレル/kg未満でした。

【平成24年 洋野町の災害廃棄物(漁網)の放射性物質濃度】(神奈川県HP参照) (ベクレル/kg)

	6月8日採取			7月18日採取								
	No.A	No.B	No.C	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9
放射性セシウム濃度	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
セシウム134	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)
セシウム137	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)	ND (<20)

ND: 検出限界値未満

問3 漁網に鉛や農薬などの有害物質は付着していませんか。

(答) 現地で鉛製のおもりや鉛を含むロープ類を手作業で除去するとともに、各種の検査を実施するため、基準を超過した重金属などの有害物質が搬入されることはありません。

なお、神奈川県が平成25年5月に実施した農薬類15項目及びPCBの検査では、いずれも検出限界値を下回り、検出できませんでした。(重金属については次表のとおり)

【平成24年 洋野町の災害廃棄物(漁網)の重金属の溶出分析結果】(神奈川県HP参照) 単位:「mg/l」

漁網番号	カドミウム	鉛	クロム	ヒ素	セレン
C-1	0.01未満	0.05	0.01未満	0.01	0.01未満
C-2	0.01未満	0.08	0.01未満	0.01	0.01未満
【参考】 もえがら受入基準	0.3	0.3	1.5	0.3	0.3

※ もえがら等: もえがら、ばいじん、銚さい、汚泥

※ 受入れ基準: 廃棄物及び清掃に関する法律にある金属を含む産業廃棄物の溶出基準

問4 放射能濃度が100ベクレル/kg以下であっても、大量に埋め立てると影響が出ないか心配です。

(答) 神奈川県が事前に調査したところ、セシウムについては、20ベクレル/kg以下(検出限界値)であったとの報告がありました。また、100トンでは、計算上、200万ベクレルになりますが、放射性物質の濃度が濃くなったりや放射線を出す能力が強くなるわけではなく、安全性に変わりはないと言えます。

また、環境省では、一般廃棄物最終処分場で安全に処理できるセシウムの基準を8,000ベクレル/kg以下としており、100ベクレル/kg以下のものは、ほとんど無視できるレベルです。実際の処理では、漁網の上部を50cmの覆土(きれいな土)で覆うので、放射線の遮断率は99.8%となり外部に届く放射線は0に等しいと言えます。

問5 放射性物質が周辺の河川を汚染することはありませんか。(放流水は大丈夫ですか)

(答) 最終処分場は、廃棄物処理法に定める基準に適合した施設です。埋め立て処理した廃棄物からの汚水が地下に浸透したり、排水が周辺環境を汚染したりしないような構造になっています。具体的には、底面にしゃ水シートを敷設し、雨水などは浸出水処理施設で処理してから、河川に流れることとなります。放流水の放射性物質の量についても今後検査などを実施し、注意深く確認する予定です。

問6 風評被害が心配です。どのような対応を考えていますか。

(答) 被災地から箱根町へ搬出する前に、漁網全体を一定量に小分けした上で放射能濃度や有害物質を測定し確認する予定です。その他、搬出・搬入時の運搬車両の周辺や漁網を詰めたフレコンの空間線量率を測定するなど、二重、三重のチェックを行い、その結果については迅速に公表することで風評被害が起こらないように努めます。

○石川県金沢市では、100ベクレル/kg以下の基準で平成24年12月から岩手県宮古市(藤原埠頭)の漁具・漁網を戸室新保最終処分場で受け入れています。受入量は、2,100トンを予定しており、現在まで安全に処理できています。

○今回掲載したものを含め、漁網の受け入れに関する多くの質問・疑問を集めたQ&Aは、町のホームページに公開する予定です。

○受入時期の確定や安全性に関する調査結果は、今後、随時、お知らせしていく予定です。

問合せ先 環境課生活環境係 電話(85)9565